

重症熱性血小板減少症候群(SFTS) に関するQ&A

今年に入り国内で初めて死者が確認され、その存在が知られるようになったマダニ媒介性の新しい感染症「重症熱性血小板減少症候群 (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS)」ですが、マダニが媒介するということで飼い主様からいろいろと問合せを受けるケースも多いかと思えます。すでに厚生

労働省や各種メディア等から種々報じられていますが、未だ不明な点が多く、その実態については今後の研究結果待ちといった状態です。

本紙においてもこのSFTSについて、動物に対する影響等を中心に海外での情報について整理しましたのでQ & A形式でご紹介したいと思います。

Q1 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とはどのような病気ですか？

A1 マダニが媒介する新しいウイルス感染症で、(ヒトでは発熱と消化器症状を示し、重症化した場合は死亡する病気です。)2013年2月22日から(「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において)四類感染症に指定され、(診察した医師は届出が必要となっただけでなく、)感染症法の三種病原体等に指定されたことから、病原体の所持・運搬等には規制がかかります。

Q2 SFTSの原因ウイルスは？

A2 ブニヤウイルス科フレボウイルス属SFTSウイルスです。エンベロープ(+)の1本鎖RNAウイルスで、酸や熱に弱く、消毒用アルコールなどの一般的な消毒剤で消毒可能です。

Q3 SFTSウイルスの伝播経路は？

A3 マダニが媒介する感染症であり、中国においてはフタトゲチマダニが主な媒介者であると考えられていますが、オウシマダニからもSFTSウイルスが検出されていることからその他のマダニも媒介者となる可能性があります。一方、蚊による媒介については否定されています。

Q4 SFTSの症状は？

A4 ヒトにおいて、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)、頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳、咽頭痛)、出血症状(紫斑、下血)等の症状が認められ、血液検査では血小板減少や白血球減少、肝酵素値の上昇などが認められます。また、致死率は高く、およそ12%とされています。

Q5 SFTSの潜伏期間はどのくらいですか？

A5 ヒトでの潜伏期間は、マダニに咬まれてから6～14日程度と考えられています。

Q6 SFTSの発生地域はどこですか？

A6 国内においては広島、山口、愛媛、長崎、宮崎、佐賀、高知および鹿児島県でヒトのSFTS症例が確認されていますが、SFTSウイルスを媒介するマダニは日本全国に分布していることからこれら以外の地域でも発生している可能性があります。

海外においては中国でSFTSウイルスが確認されており、安徽省、河南省、湖北省、浙江省、江蘇省、遼寧省、山東省で発生がみられています。またアメリカのミズーリ州においてもSFTSウイルス近縁のウイルスによるSFTS様の症例が報告されています。

Q7 ヒトにおけるSFTSウイルス感染率はどのくらいですか？

A7 中国の流行地における調査では、健常者の0.8～3.8%から抗SFTSウイルス抗体が検出されています。

一方、国内のヒトにおける抗体調査の報告はなく、感染率は不明です。

Q8 SFTSの発生に季節性はありますか？

A8 はい。中国におけるSFTSの発生はマダニの発生する季節に一致し、3～11月に発生し、そのピークは5～7月です。

Q9 ヒト以外の動物にも感染しますか？

A9 中国における血清疫学調査では山羊、牛、羊、豚、鶏および犬より抗SFTSウイルス抗体が高率に検出されています。SFTS流行地である江蘇省での調査では6.4%の犬が抗SFTSウイルス抗体陽性でした(N=125)。一方、湖北省での調査では55.0%の陽性率でした(N=11)。尚、中国の農村部ではマダニの寄生率が著しく高く、犬や家畜に数百のマダニが寄生していることも珍しくありません。この高いマダニ寄生率が高い抗体保有率に関連していると考えられます。

一方、国内における調査報告はなく、感染率は不明です。

Q10 動物でもSFTSが発症しますか？

A10 牛、山羊、犬、猫に寄生するマダニ、およびこれら動物からもSFTSウイルス遺伝子が検出されていますが、国内外において動物のSFTSウイルス感染による発症の報告はありません。したがって、現時点ではヒトのみの病気であると考えられています。

尚、これらの動物が感染源となっているかについても特定されていません。

Q11 SFTSの予防法はありますか？

A11 マダニがSFTSウイルスを媒介することから、マダニの寄生を予防することが重要だと考えられます。そのため、散歩などの際に草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る場合は、長袖、長ズボンなどを着用し、肌の露出を避けることが重要です。また、犬や猫にマダニの駆除剤を使用しておくことでマダニの寄生が予防でき、本ウイルスの感染リスクを低減できると考えられます。

現時点では、動物がヒトと同様にSFTS症状を示すといったことや、SFTSウイルスが動物を介しヒトに感染するといったことは確認されておらず、いたずらに怖がる必要性はないと考えられます。ですが、念のためSFTSウイルスの感染を防ぐためにも、またパペシア症

をはじめとするマダニ媒介性感染症の予防のためにも犬猫へのマダニ寄生予防は重要です。そのためには、マダニ駆除剤を定期的に投与することが最も効果的な防除策と考えられます。

【文責：営業技術部】